

# パソコン・ガイド・基礎一般

## パソコン 「F1」キー：ヘルプ」の使い方ガイド

- == ウィンドウズのデスク・トップ画面で「F1」キーを押すと「Windowsヘルプ」が現れます。
- == 各アプリケーション画面で「F1」キーを押すと 該当アプリケーションに関連した「ヘルプ」が現れます。

**目次** 目的の項目をクリックするとその項目に飛びます。  
戻るときは画面の左上の 戻る印をクリック。

## PC利用一般ガイド

保守・修理に出す前の対策

PCのバックアップ対策

使用中にPCが止まってしまった時

いざの時に困らない為に

PCの基本的な健康診断

PCの基本的な健康維持

## PC操作一般ガイド

マウス操作

Function キー

ファイルの圧縮・解凍

ダウンロード

ファイルのバックアップ方法---複数のフロッピー使用

## PC利用一般ガイド

### 保守・修理に出す前の対策

- 1 : 保守・修理では記憶装置HDD（ハードディスク）などは出荷時の状態に書き換えられてしまうので自分の作成ファイルなどは 別の記憶媒体（ディスケット，CDROM，DVDなど）に移して保管しておくこと。
- 2 : PC購入後に自分で導入したアプリケーション・ソフトも修理後に自分で再導入する必要があるので導入用メディア（ディスケット，CDROM，DVDなど）を準備をしておくこと。

## PCのバックアップ対策

PC・Windowsがうまく起動しない場合の緊急対策。

< PCを正常に起動させる手法 >

準備： 「PC起動ディスク」を作成する

目的： PC起動に最低必要な情報をディスクに保管する

作成法 「スタート」> 「設定」> 「コントロール・パネル」> 「アプリケーションの追加と削除」  
> 「起動ディスク」> 「ディスクの作成」

\*\*\* 空のディスク（フォーマット済み）を用意して それに書き込む。

使用法 PC異常時の対応。

手順1 「PC起動ディスク」をディスク・ドライブに入れてからPCの電源を入れる。

**参考：** 「PC起動ディスク」には正常時のPC基本情報を保存してある。

普通はHDD（ハード・ディスク・ドライブ）の情報を使ってPCが起動するが  
この場合はFDD（フロッピー・ディスク・ドライブ）の情報を使って起動する。

手順2 FDD（Aドライブ）が読み込まれて PCが立ち上がる。

手順3 DOSモード画面が出る。 A:¥> が表示される。

手順4 PCの各機能の確認ができる。 各種DOSコマンドが実行可能になる。

必要に応じてautoexec.bat , config.sys などのファイルをC:¥にコピーして  
PC電源を入れ直す。

< PC・Windowsを正常に起動させる手法 > . . . . お勧め！！

準備： 「PC起動ディスク」を作成する。 「Windows」起動を含む。

目的： PC・Windows起動に最低必要な情報をディスクに保管する

作成法 「スタート」> 「プログラム」> 「アクセサリ」> 「システム・ツール」  
> 「エマージェンシー・リカバリー・ユーティリティー  
(Emergency Recovery Utility)」> 「next」> 「A drive」

\*\*\* 空のディスク（フォーマット済み）を用意して それに書き込む。

使用法 PC異常時の対応。

手順1 「PC起動ディスク」をディスク・ドライブに入れてからPCの電源を入れる。

**参考：** 「PC起動ディスク」には正常時のPC基本情報を保存してある。

普通はHDD（ハード・ディスク・ドライブ）の情報を使ってPCが起動するが  
この場合はFDD（フロッピー・ディスク・ドライブ）の情報を使って起動する。

手順2 FDD（Aドライブ）が読み込まれて DOSモード画面が出る。 A:¥> が表示される。

手順3 erd と入力して基本的な情報をPCに設定し直す。

手順4 PC電源を一度切ってから電源を入れ直す。

手順5 「Starting Windows」というメッセージが画面にでたら「F8」を押す。

手順6 「Command Prompt」をダブルクリック（選択・実行）する。 C:¥> が表示される。

手順7 win と入力すると windowsが起動される。

[注意]

< 1 > 新たなアプリケーション・ソフトや機構（HDD，FDD，アダプター，プリンター，スキャナー 等）を追加・削除した場合はPCの基本情報が変更されるので 出来るだけ上記の「PC起動ディスク」を作成しなおすこと。

< 2 > 自分で作成したファイル（文書，画像，住所録，電話帳 etc.）は 保管場所を忘れずに。

## 使用中にPCが止まってしまった時

- 1 : 「Esc」キーを押してみて復帰するか否かを確認すること。表示があればガイドに従うこと。
- 2 : それでも復帰しない場合は「Alt」と「Esc」の二つのキーを同時に押して表示されるガイドに従うこと。
- 3 : それでも復帰しない場合は「シャットダウン」するか または「Alt」、「Ctrl」、「Delete」の三個のキーを同時に押してPCを再起動させる。
- 4 : それでも復帰しない場合 またはキー入力が出来ないなどの場合は「電源」を切って再度PCを立ち上げ直すこと。  
但し HDD/FDDなどのランプが点灯している時、機械部の音が鳴っている時には電源を切らないこと。

## いざの時に困らない為に

- 1 : 作成中のファイルをマメに保管（セーブ）すること。  
折角作った・編集した内容が不意のPCトラブルなどで無駄にならないように。
- 2 : PCの電源をきる場合は正規の手順に従うこと。  
正規終了 : 「スタート」>「Windowsの終了」  
異常時の終了 : HDD/FDDなどのランプが消えている時、機械部の音が鳴っていない時に切ること。  
PCの必要な情報を保管する動作中には電源をきらないこと。
- 3 : ファイルを間違えて「削除」したときは ;
  - ・ 「ごみ箱」に残っている場合は「元に戻す」。
  - ・ 「ごみ箱」から「間違えて削除」してしまった場合は 一切のファイルの「保管・削除」を行わずすみやかに「Recovery」手順に従うこと。  
  
「Recovery」方法－1 DOSモードで「recovery」コマンドを使う。  
「Recovery」方法－2 専門の「recovery tool ソフト」を使う。詳細は当方までコンタクトください。
- 4 : ディスクを間違えて「format」してしまった時は ;
  - ・ 一切のファイルの「保管・削除」を行わず すみやかに「Recovery」方法－2 を行う。

## PCの基本的な健康診断

PCトラブル原因を分析・究明する場合に 参考・手掛かりになるのは 使用中のPCの「基本的な健康状態」です。

診断情報を得るには 次の二通りの方法があります。

### <1> 「システム・モニター」 ユーティリティーを使う方法

PCの現在の「諸性能状態」を調べることができます。

例 : MPUの稼働率、メモリーの使用状態、・・・・・・・・

このユーティリティーの呼び出し手順 :

「スタート」>「プログラム」>「アクセサリ」>「システムツール」>「システム・モニター」

### <2> 「(システム) リソース・メーター」 ユーティリティーを使う方法

PCの現在の「諸体力状態」を調べることができます。

例 : システム・リソース状況、ユーザー・リソース状態、・・・・・・・・

このユーティリティーの呼び出し手順：

「スタート」>「プログラム」>「アクセサリー」>「システムツール」>「リソース・メーター」

## PCの基本的な健康維持

PCのHDD：ハードディスクを効率的に使うために 有効なシステム・ツールがあります。

「スキャンディスク」と「デフラグ」ツールです。

### <1> 「スキャンディスク」

- ・ ・ 各ドライブの中をチェックして エラーがあれば自動的に修復してくれます。
- ・ ・ PCの使用頻度にもよりますが 月に一度はチェックするといいいでしょう。
- ・ ・ 実行方法：

「スタート」>「プログラム」>「アクセサリー」>「システム・ツール」>「スキャンディスク」  
「エラー・チェックするドライブ」は表示されている C: . . . 全部行うといいいでしょう。  
「チェックする方法」は「標準」を選ぶといいいでしょう。  
「エラーを自動的に修復」を選んで行うといいいでしょう。

### <2> 「デフラグ」

- ・ ・ 各ドライブの中をチェックして 「細切れ」に書き込まれたファイル情報を「整理整頓」し直してディスクのアクセス効率の改善を計ります。
- ・ ・ PCの使用頻度にもよりますが 半年に一度はチェックするといいいでしょう。
- ・ ・ 「最適化するドライブ」は「全てのドライブ」（プルダウンの一番下）を選ぶといいいでしょう。

## PC操作一般ガイド

### マウス操作

- 位置移動： 任意の位置に移動
- 左クリック： 位置，領域，項目，ファイルなどの「選択・指定」
- 右クリック： 「選択」された「部分，ファイル」の属性情報（特性，可能な動作，etc）を表示
- ダブルクリック： 「実行」 . . . @実行可能ファイル  
「位置指定」 . . . @文字入力時
- ドラッグ&ドロップ： 「左クリック」したまま「移動」して 目的の位置で「左クリックを放す」こと。  
「複数の文字」指定， 「文章などの領域」指定， 「セル領域」指定， etc.

### Function キー

「F1」=「ヘルプ」

日本語入力モード (MicroSoft IME 2000)

例：

入力	ha	tu	機能
「F7」	ハ	ツ	全角変換
「F8」	ハ	ッ	半角変換

操作方法；

- 1：「文字モードアイコン」右クリック
- 2：「プロパティ」をクリック
- 3：「全般」画面で「設定」をクリック

4 : 「キー設定」画面の表を参照

一般のアプリケーション : 「F1」キーで「ヘルプ」表示

操作方法 ;

- 1 : 「ヘルプ」をクリック
- 2 : 「ファンクションキー」と入力

**ファイルの圧縮・解凍** . . . 一般圧縮ファイル (.zip , .lha ) , 自己解凍ファイル (.exe)

目的 :  
・ 大きな情報をコンパクトにして保管場所をセーブし 必要なときに元に戻す道具。  
・ 大きな情報を送信すると送信時間がかかるので コンパクトな情報にして送信時間を短縮し  
受信した後で 元 ( の大きさ ) に戻す道具。

圧縮 : 大容量 ( バイト数 ) のファイルを小容量に縮小すること。

解凍 : 圧縮されたファイルを元に戻すこと。

必要な「道具」 :

圧縮・解凍するには 「winzip」 などの道具が必要。

操作 : ファイルをダブル・クリックするとファイルの拡張子 ( .zip , .lha , .exe ) によって自動的に「道具」が開かれて実行される。

## ダウンロード

一般のファイル

操作方法 ;

- 1 : Webページ中の「ダウンロード」をクリック
- 2 : 「保管場所」「保管するファイル名」を聞かれる
- 3 : 「保管場所」指定 . . . ドライブ名 , ディレクトリ名 , サブ・ディレクトリ名  
「ファイル名」指定 . . . デフォルト名 または 新規の名前

特殊なファイル . . . 一般圧縮ファイル (.zip , .lha ) , 自己解凍ファイル (.exe)

操作方法 ;

- 1 : Webページ中の「ダウンロード」をクリック
- 2 : 「保管場所」「保管するファイル名」を聞かれる
- 3 : 「保管場所」を指定 . . . ドライブ名 , ディレクトリ名 , サブ・ディレクトリ名  
「ファイル名」指定 . . . デフォルト名のままにすること
- 4 : 保管後の操作  
ファイル名をダブル・クリックして「解凍」する  
「解凍」後の結果の保管場所を選択・指定する

## ファイルのバックアップ方法--複数のフロッピー使用

目的 : ファイルを他のメディア/場所に遺憾して保管する。

例として複数のフロッピーディスクにまたがって保管する場合を以下説明する。

- ・ ・ 一般にファイルサイズが 1 . 2 メガバイトぐらいならば通常の「コピー」で一枚のフロッピーに収納保管できる。
- ・ ・ しかし 一枚には収まらないほどの大きなファイルを複数のフロッピーに保管したい場合がある。

- ・ ・ そのような場合には 以下の方法が有効である。
- 準備： ・ ・ あらかじめ空のフロッピー・ディスク（フォーマット済みのもの）を複数枚用意すること。
- 動作： ・ ・ この「バックアップ」は次の二つの機能をサポートしている。
  - < 1 > 元のファイルを特殊な圧縮方法を使って指定したメディア（フロッピー・ディスクなど）に保管する「バックアップ」機能。
  - < 2 > 保管したファイルを元のファイルに戻す「復元」機能。

#### 「バックアップ」 機能。

##### <A> 「バックアップ/保管」を行う場合。

<A1> 「バックアップ プログラム」を起動する。

手順-1: 「スタート」>「プログラム」>「アクセサリ」>「システムツール」>「バックアップ」  
PCによっては「xxx装置がない」などのメッセージが表示されることがあるが それを無視して「OK」をクリックすると「Microsoftバックアップ」画面があらわれる。

<A2> 「バックアップ」すべきファイルを指定する。

手順-2: 「バックアップ」画面の左にある「バックアップするファイルの選択」リストから

手順-3: 保管したい対象ファイル名を表示させてマーク" "をクリックしてチェックをいれる。

同時に複数のファイルを指定することも (サブ)ディレクトリー全体を指定することも出来る。  
指定が済んだら 「次へ>」をクリックする。

<A3> 「バックアップ先」の場所・メディア(例：フロッピー・ディスク・ドライブ A: or B:)を指定する。

手順-4: 「バックアップの保存先の選択」リストの中から保管先の場所・ディレクトリーを指定する。

「デバイスまたは場所の選択」欄の表示が正しいと事を確認して「バックアップの開始」をクリックする。

<A4> 「バックアップ」を開始する。

手順-5: 「バックアップ セット/ファイル」に任意の名前 "abcdef" (後で自分で識別する為)を入力して「OK」をクリックする。

手順-6: 「バックアップ/保管」機能が開始される。 最初のフロッピーディスクがいっぱいになると次のフロッピーを挿入するように指示されるので それに従う。

正常に終了すると 指定したメディア/場所に "abcdef.QIC" という名前のファイルが作られる。

##### <B> 「バックアップ/保管」したファイルを「元に戻す/復元する場合。

<B1> 「バックアップ プログラム」を起動する。

手順-1: 「スタート」>「プログラム」>「アクセサリ」>「システムツール」>「バックアップ」  
PCによっては「xxx装置がない」などのメッセージが表示されることがあるが それを無視して「OK」をクリックすると「Microsoftバックアップ」画面があらわれる。

<B2> 「復元」をクリックして 「復元元(バックアップしたファイルが保管されているメディアの場所)」を指定する。

手順-2: 「復元」画面の左にある「復元元」リストから場所 (例: A:)を選択すると 右側の「バックアップ セット」欄に 復元元のファイル名 "abcdef.Q I C" が表示されるのでこのファイルをクリック選択してから 「次へ>」をクリックする。

手順-3: 選択された ドライブFD A: にランプが点灯し準備が開始される。

「バックアップ セットからの選択」欄から 復元元のファイル名 "abcdef.Q I C" をクリック選択する。 右側に復元先のドライブ名と図柄マークが表示される。

手順-4: 図柄マークをダブルクリックして復元保管したい場所・(サブ)ディレクトリーを表示させて

マーク" "をクリックしてチェックをいれる。すると左の欄「バックアップ セットからの

選択」に関連するディレクトリーに自動的にチェックがつくので確認する。

「復元の開始」をクリックする。

< B3 > 「復元先の場所・(サブ)ディレクトリー」を再度選択指定して 実際の「復元」機能を開始させる。

手順-5: 「フォルダーの参照」画面が表示されるので 「復元やh擬革を行う場所」をリストの中から  
保管先の場所・ディレクトリーを指定する。

手順-6: 指定が済むと その画面下部に「OK」 と「キャンセル」が表示されるので 「OK」を  
クリックする。

「復元動作」が行われ 正常に終了すると 「復元完了」の表示がある。